

# 特集。北秋田市のお盆行事

## 各地区・集落で伝統行事を披露

北秋田市には、たくさんのお盆の伝統文化が残っています。太鼓や踊りなどの郷土芸能、七夕やまと火、などの季節折々の行事。そのいずれもが、地域住民の手によって大切に保存、伝承されてきたものです。行事の多くは、「神事」あるいは「祖先を供養する」ため、お祭りの目やお盆に行われています。今年も、お盆期間中の8月18日から16日にかけてそれぞれ地区伝統の行事が行われましたので、そのいくつかをご紹介します。

阿仁川堤防に幻想的に浮かび上がったまと火の火文字

### 祖先の霊を迎え、供養する「万灯火(まとび)」

「万灯火」は、古くから小阿仁川流域の合川・下小阿仁地区や上小阿仁村で行われている春彼岸の伝統行事。

同様の行事は奈良時代から行われていた記録があり、仏前で香をたいたり、花を献じたりすることと同様に宗教的な意味があると言われています。

同地域では、墓地に灯かりをとすとともに、山の尾根づたいや沢づたい、あるいは川原にたいまつを灯し先祖の霊を我が家に迎えてもてなし、供養とともに豊年満

作、家内安全を祈ってきました。現在では、帰省客でふるさとにぎわうお盆の14日、観光万灯火として「合川まと火」が行われています。合わせて華やかな夏祭りを演出しようと、「通り踊り」や「タント節」など地区内の郷土芸能を集めた「合川ふるさとまつり」がお盆を盛り上げます。

灯りのもとは「ダンポ」と呼ばれる布切れを丸めたものに灯油をしみこませたもの。合川地区の全世帯で1個ずつ作られ、中学生の協力を得て阿仁川堤防約2kmに設置されます。灯されたダンポは、川面を赤く幻想的に照らし出します。



ぴったりと息のあった「通り踊り」。婦人会や合川中女子生徒らが参加



### 慶応年間に始まった「鷹巣盆踊り」(現「市民盆踊大会」)

鷹巣地区では、毎年14日と15日、駅前一目抜き通りを会場に「市民盆踊大会」が開催され、多くの市民や帰省客らが踊りの輪に加わります。

この盆踊大会は、もともとは慶応年間(1865)の頃、鷹巣村の商人らが商売繁盛と豊作を祈願して踊った「鷹巣盆踊り」が起源といわれています。昭和初期から戦後の30年代までは空白期間があったようですが、40年頃に復活、現在に至っています。

### 豊作と厄除けを祈願「前山郷土芸能」

前山地区の郷土芸能は、もともと「前山盆踊り」として伝承され、江戸中期、村の旧家が集まって豊作と厄除けを祈願するために雷皇神社に奉納したのがきっかけといわれています。

踊りは、佐竹氏が常陸の国から秋田入りした時の行列の様子が原型といわれ、現在では「奴踊り」「獅子踊り」「じゃこ釣り舞」が踊り伝えられています。ユニークな踊り「じゃこ釣り舞」は、釣り好きな兄弟のしぐさを滑稽

に演じる舞で、演技で釣り上げられる魚は本物の鯉が使われるなど、ユモアたっぷりな演技と凝った演出に笑いと拍手が沸き起こっていました。

### 佐竹藩主の巡遊を慰めるために始まったという「今泉駒踊り」

今泉の駒踊りは、藩政時代、佐竹藩主の巡遊を慰めるために踊られたものだといわれています。

踊りは勇壮な武将と騎馬の姿を武芸的に表現したもので、踊り手は馬杵に馬頭をつけ、鎧、鉢巻姿で舞います。以前は獅子踊りもあったといいますが現在は欠落して扇奴が付随

しているそうです。

伴奏は笛と太鼓で、ぶっ込み、三拍子、もみじ奴、花奴、あやくずし、流し奴など七種類が伝えられ、戦国時代の合戦絵巻を武芸化したものだといわれています。

踊り手は小中学生から大人まで。同集落でも後継者の確保が課題となっているようです。



目抜き通りを歩行者天国にして開催される「市民盆踊大会」



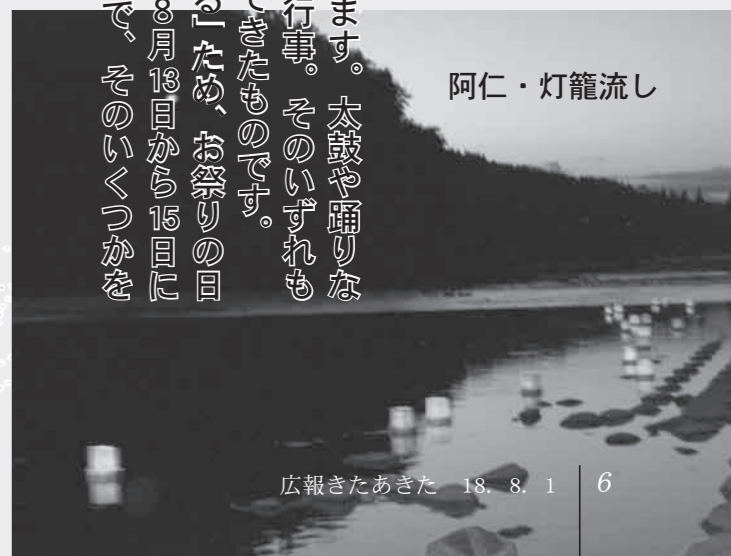
前山郷土芸能(奴踊り)



前山郷土芸能(じゃこ釣り舞)



今泉駒踊り



阿仁・灯籠流し